

為替リスクの管理

HCアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者
加入協会

関東財務局長（金商）第430号
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人投資信託協会

<https://www.fromhc.com>

2025.11.25



為替リスク

保有する外貨建て資産や負債の円評価額(価値)が、為替相場の影響で変動すること。為替リスクは本源的なリスクに付随するリスクとして意図的にとるものではなく、最小化すべき対象となる。

リスク管理における為替リスクの位置づけ

リスクアペタイトフレームワークによるリスク管理の階層化において、為替リスクは基本的には2階層目の付随リスクに区分される。付随リスクは、本源的リスクティクに不可避に付随するリスクであって、意図せざるもの、不要なものとして、制御され、最小化されるべきものである。

外貨建て投資対象に投資を行う際、為替リスクの管理が不可欠となる。そのため、為替リスクは為替ヘッジや通貨分散を行い、最小化していく必要がある。例外的に為替リスクを1階層目の本源的リスクとして位置付け、為替リスクによる収益を得ようとする人もいる。しかしこれは運用とは言えず、投機でしかない。

また、3階層目の非本源的リスクとして、為替リスクを厳格に管理する人もいる。この場合、ヘッジコストが上昇した際に困難を来たすため、運用を中止することになる。

なぜ外貨建ての投資対象に目を向けることになるのか

円建て資産を投資対象にすれば、国内の投資家は為替リスクを被る必要はないですが、より魅力的な投資機会を求め海外に目を向けた際には為替リスクを被ることになる。債券を例にとれば、国内の債券市場は未発達で多様化が進んでおらず、国債中心とならざるを得ないため、海外に投資機会を求める必要が出てくる。特に、市場が広く深度のある米ドル建てが投資対象の中心となるであろう。そこで為替リスクの抑制が必要となる。

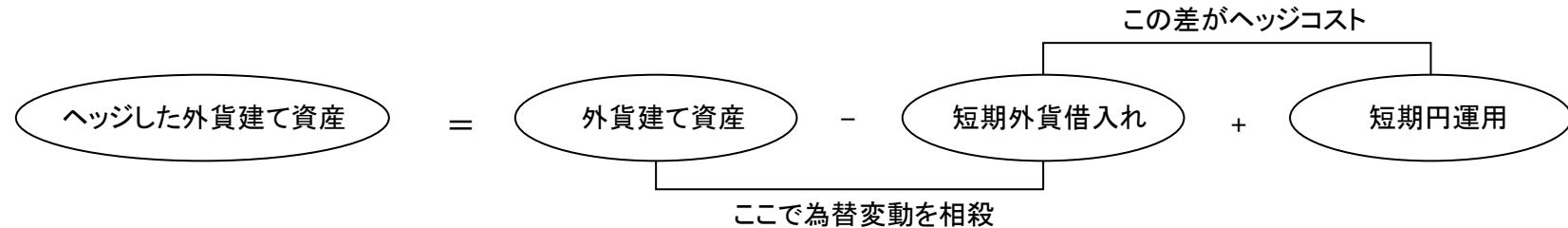
為替リスクの管理手法

- ・為替ヘッジ： フォワード取引を通じて、予め外貨を売却しておくこと。保有している外貨建て債券の為替変動損益を、ファワードの変動損益と相殺する仕組み。
- ・通貨分散： 異なる通貨建ての投資対象を採用することで、為替リスクを分散させる手法。主要通貨だけでなく、エマージング通貨を採用することや相関関係の小さい通貨同士を組み入れることで為替変動の影響を抑えるようにする。
- ・クロスヘッジ： 原資産の通貨のデリバティブが取引されていない場合や流動性が低い場合などに原資産通貨と連動性の高い別の通貨のデリバティブ取引を使って為替ヘッジを行う手法。例えば香港ドルのヘッジを米ドルを使って行うなどの取引が考えられる。

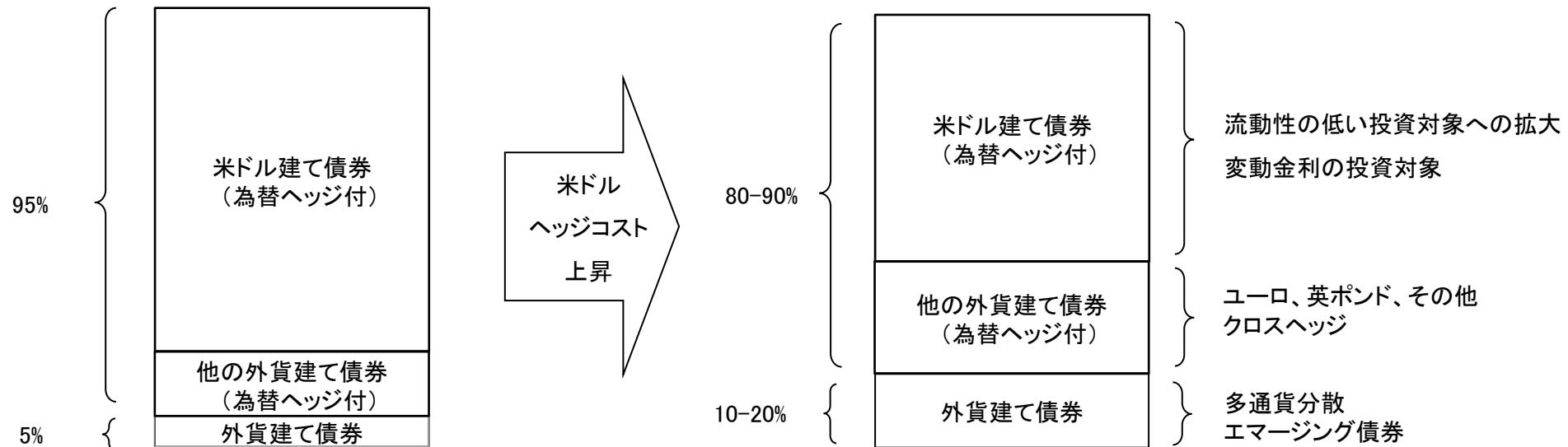
用語集もご参考ください <https://www.fromhc.com/glossary/>

外貨建て資産の為替リスクの管理手法

- ⇒ 為替ヘッジとは、フォワード取引を通じて、予め外貨を売却しておくことで、保有している外貨建て債券の為替変動損益を、フォワードの変動損益と相殺する仕組み。
- ⇒ フォワードの売却は、外貨の短期借り入れと同期間の円の短期運用を行うのと同じことになり、金利の払いと受け取りの差が、ヘッジコストとなる。外貨の短期金利が円の短期金利よりも高いときは、コストはマイナスとなり、逆のときは、コストがプラス(ヘッジ収益が生まれる)となる。

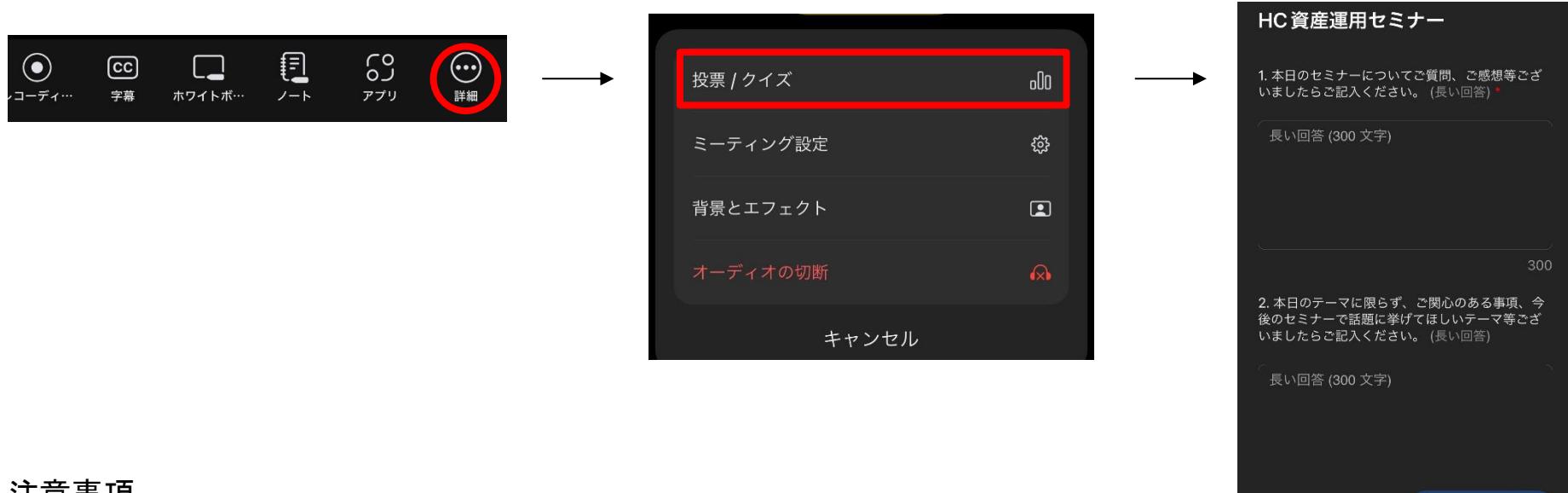


- ⇒ ヘッジコスト上昇の際は、ヘッジ率を引き下げ、変動金利である投資対象への分散、投資対象拡大による通貨分散、クロスヘッジの活用等の対策が考えられる。



講演後アンケート/注意事項

今後の運営に活かしたく、ご質問やご意見、ご感想、ご興味あるテーマなどを承っておりますので、ご自由にご意見をお寄せください。
回答方法:各セミナー講演途上でZoom上で配信します。配信後は一度閉じた場合でも、以下の通り詳細から再表示できます。



注意事項

- 本セミナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討を行うものであり、当社が行う金融商品取引業の内容に関する情報提供及び関連する特定の金融商品等の勧誘を行うものではありません。
- 本資料中のいかなる内容も将来の投資成果及び将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 本資料の著作権その他知的財産権は当社に帰属し、当社の事前の許可なく、本資料を第三者に交付することや記載された内容を転用することは固く禁じます。